



再生実行マニュアル

デザインコンセプト

今回のデザインは、敷地の現状に基づき、可逆的なモジュール化の空間戦略によって環境の質を高めることを目指す。そして、フィードバックと運営の仕組みを確立することで、空間の最適化を実現する。空間を改善することだけでなく、持続可能な意識とガバナンスの構築にも貢献したいと考えている。

戦略面では、「可逆的なモジュール化」と「持続可能な運営マネジメント」を並行して進める。

モジュール化は、柔軟かつ可逆的な対策を保証し、それぞれの場所に合わせた迅速な対応を可能にする。

持続可能な運営マネジメントは、協議による共同管理を通じて、更新プロセスと成果が持続可能かつ横展開可能であることを担保する。

実施面では、まず複数の橋でパイロットプロジェクトを先行させ、短期的な成果を迅速に示す。次に、中期的な制度化を進めて標準的なプロセスを形成し、最終的に、大阪の「町橋システム・再生実行マニュアル」として集約し、市内 808 の町橋への展開に向けた枠組みを提供したいと考えている。

このデザイン枠組みにより、橋は単なる交通施設ではなく、市民、文化、公共生活を結びつける中心的なノードとして再活性化される。そして、大阪の「町橋システム」全体の更新に、持続可能な活力を注入することを期待している。

大阪町橋システム

近年、中之島ガーデンブリッジ、錦橋、水晶橋、本町橋の4つの橋梁で社会実験が行った。これは、民間主体が主導する質の高い橋梁維持管理活動を通じて、これらの橋の魅力さをさらに高めることを目的としている。

中之島ガーデンブリッジのポジショニング：文化・レジャーの拠点

ターゲット層：25歳から44歳の層
彼らは経済的に安定しており、生活の質や文化体験を重視する。

錦橋のポジショニング：通行と休憩のため
ターゲット層：25歳から34歳のビジネスパーソンや買い物好きの人々。
特に、スムーズな通行ルートと短い休憩スペースを求める、ビジネスマンや通勤者などが含まれる。

本町橋のポジショニング：コミュニティの活力とイノベーション実験の場
ターゲット層：クリエイティブな仕事に携わる人々、若者、家族層、そして水上アクティビティや文化活動に参加する市民など、多様な人々。

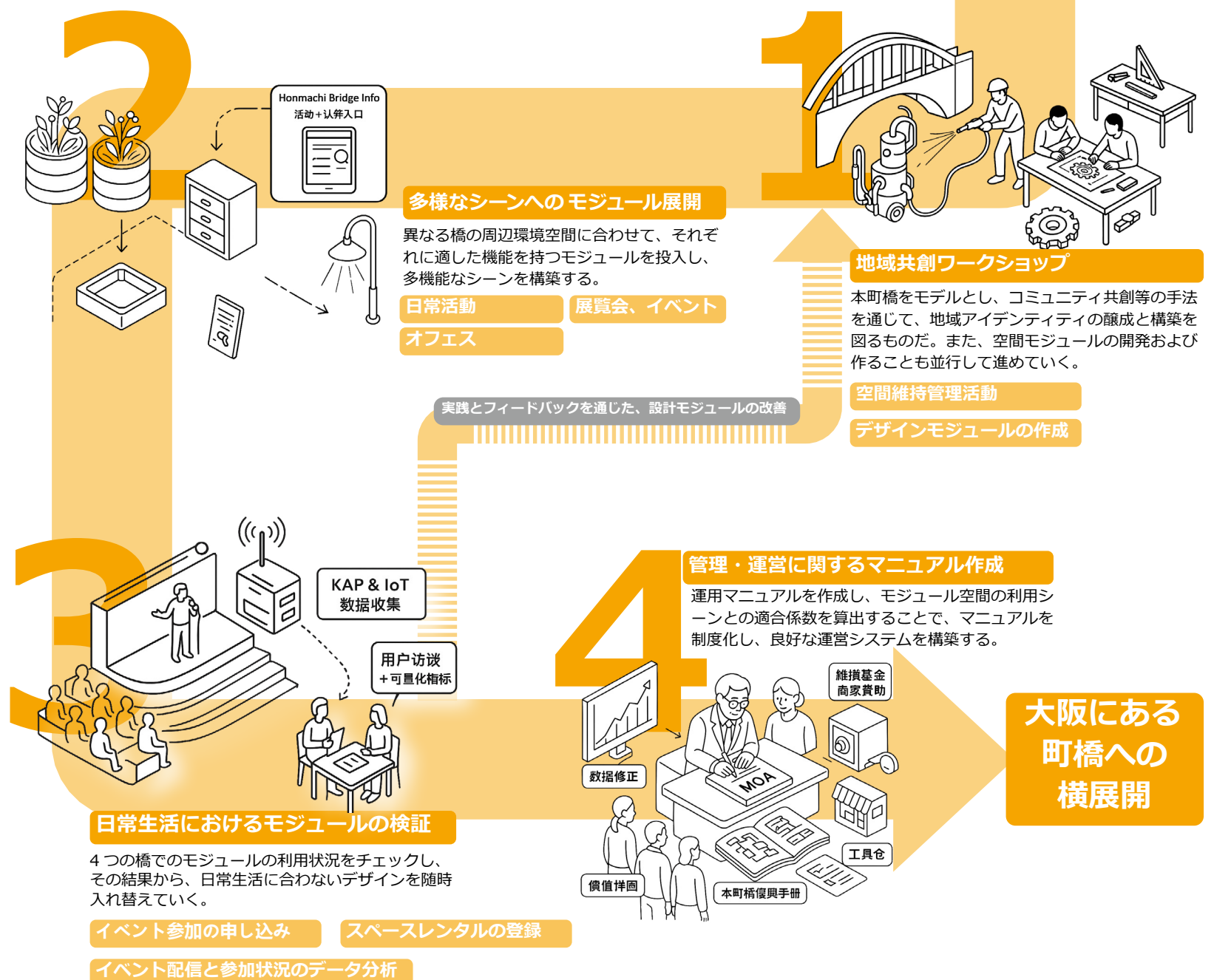
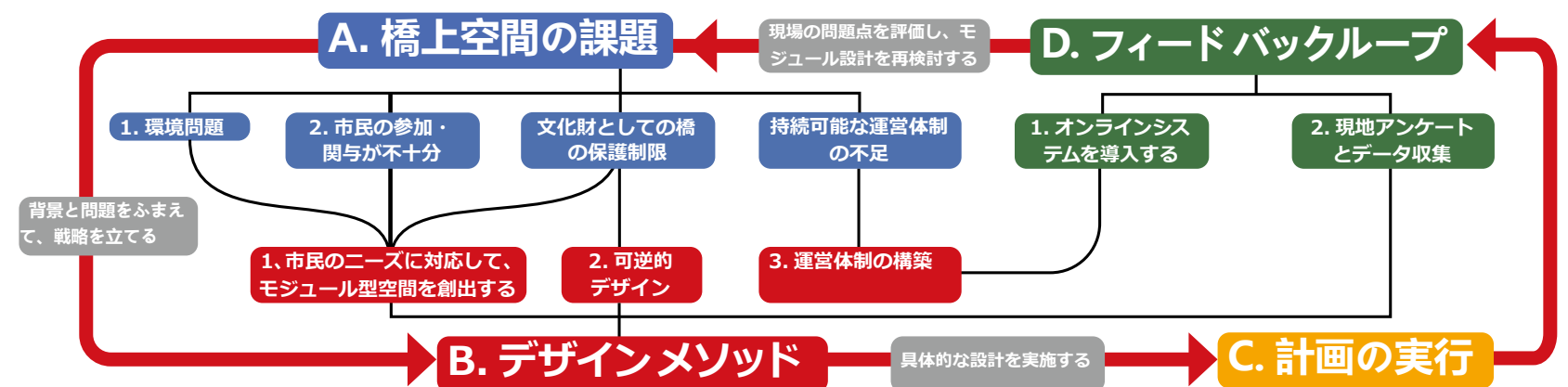
中之島橋

水晶橋

錦橋

本町橋

町橋システム 再生 デザインフレーム

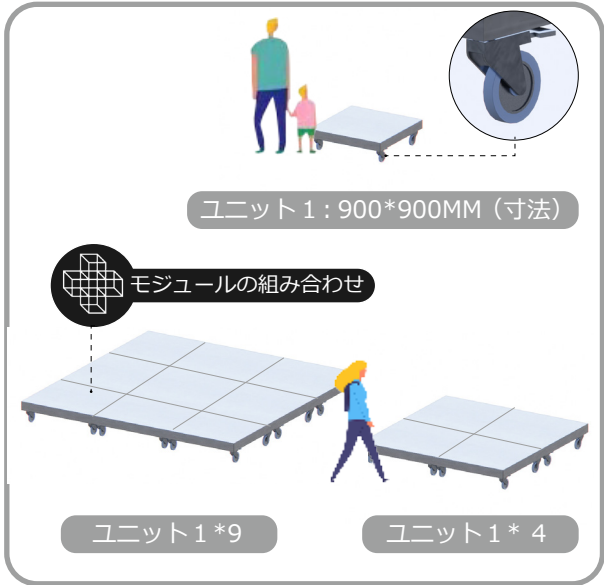


大阪にある
町橋への
横展開

本町橋橋詰広場・再生計画 -2025
基礎モジュール設計



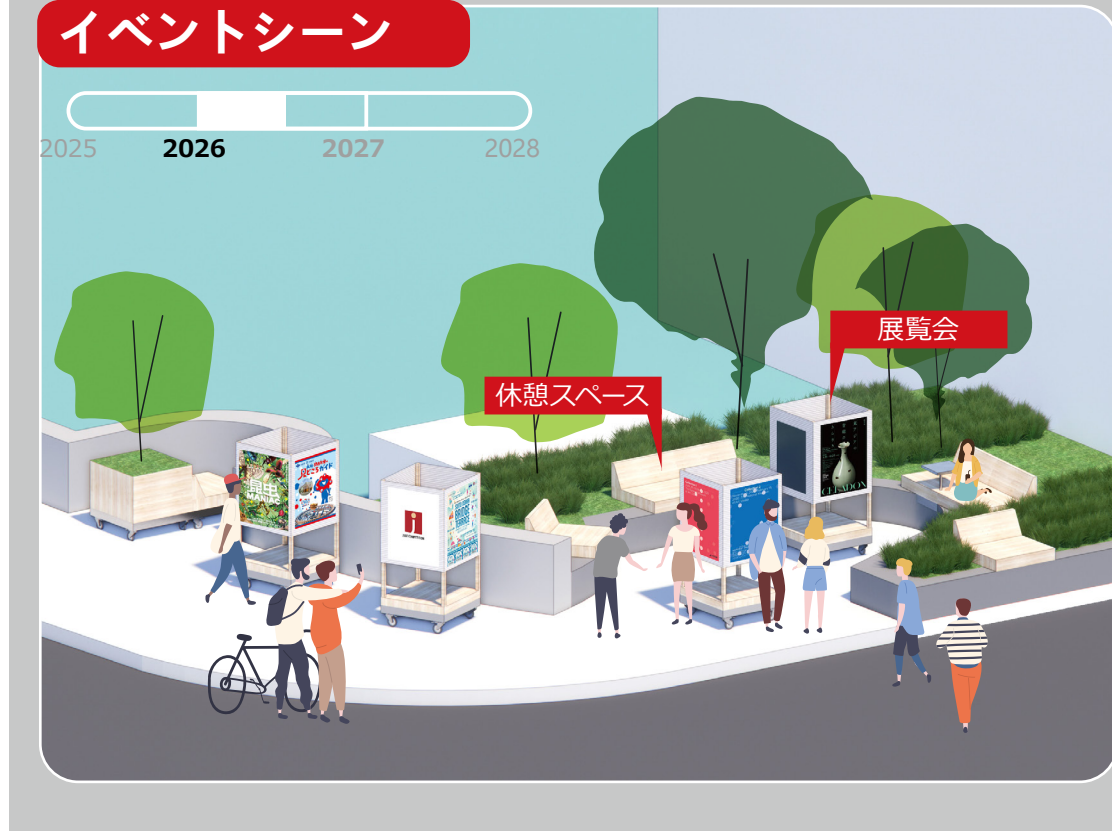
移動モジュール



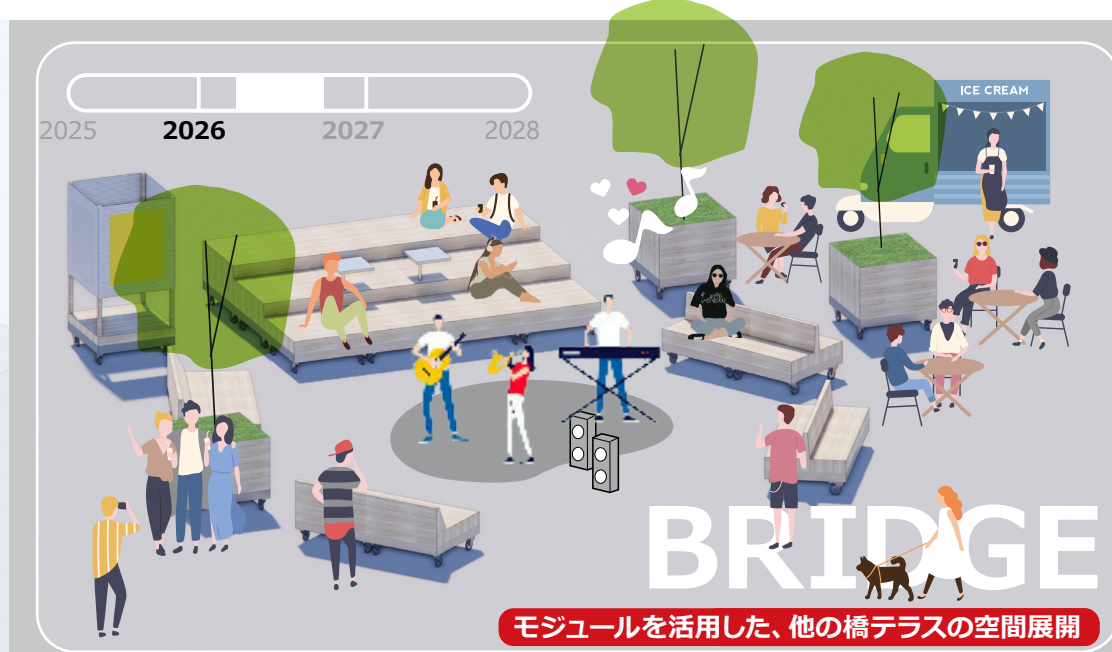
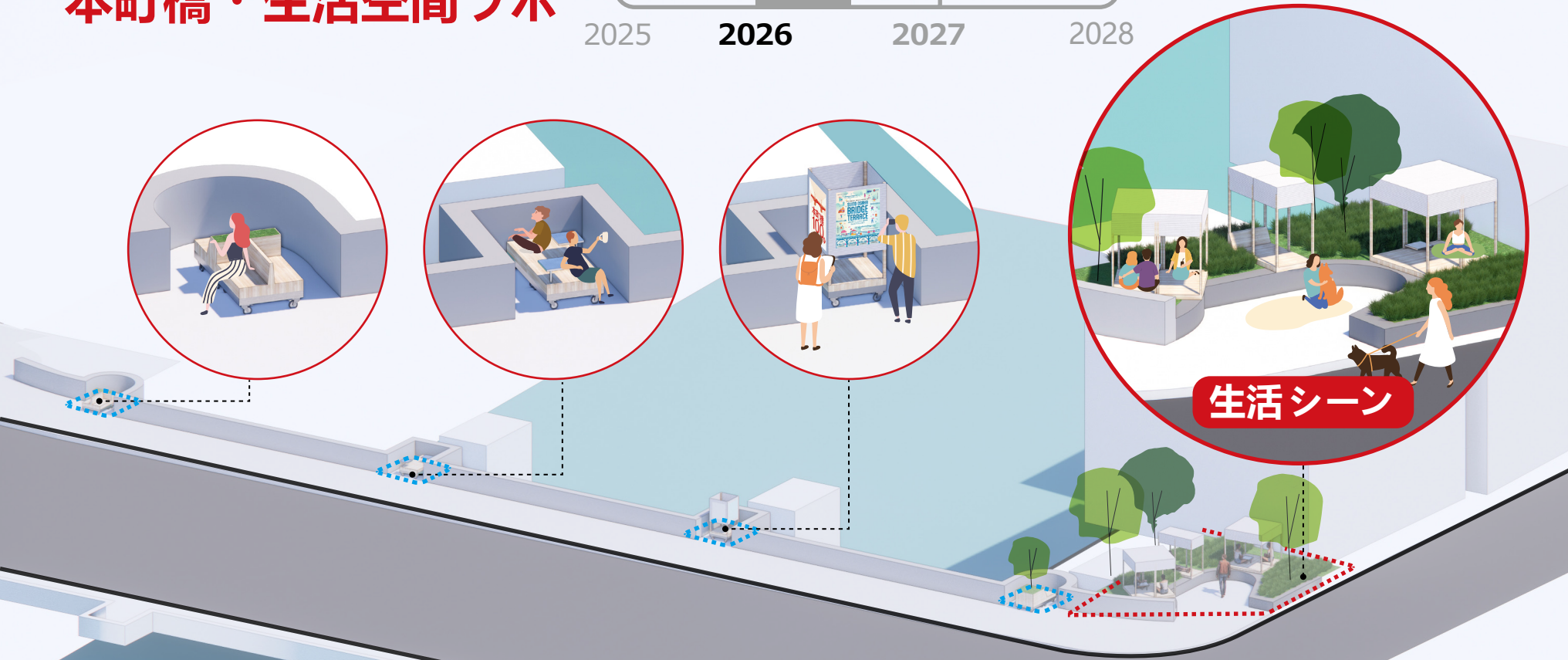
生活モジュール



イベントモジュール



本町橋・生活空間ラボ



- コミュニティ
- 休憩
- オフィス
- ワークショップ
- 展覧会
- 読書 / スタディ
- 地域マルチメディア

